

Kasugaoka J.H.S

# 明日への扉

アスヘノトビラ

令和2年1月号

京都市立春日丘中学校

## 道徳通信

\*\*\*学校教育目標\*\*\*

『確かな自立・志ある貢献』



まだまだ先と思っていた東京オリンピック、あと半年後に迫ってきました。みなさんも知っている通り、東京でオリンピックが行われるのは今回で2回目になります。今から56年前の1964年10月10日、当時の天皇であった昭和天皇の開会宣言のもと、東京オリンピックが開催されました。そして、その10月10日を記念して、国民の祝日「体育の日」になりました。(2000年からは10月第2月曜日に変更されました。)当時のオリンピックには93か国の5133人が参加したと言われています。その人数を聞くと「多いな」と感じるかもしれませんが、今から4年前のリオデジャネイロオリンピックでは207の国・地域の約11000人が参加しました。おそらく、半年後の東京オリンピックでも同じくらいの国・地域が参加し、たくさんの方が日本を訪れることと思います。

4年に1度の祭典である「オリンピック」。きっとこれからの人生の中で、再び“東京”でオリンピックが開催される可能性は高くないでしょう。世界中が注目するこのオリンピックをぜひみなさんも注目してほしいと思います！



\*\*\*授業の様子を紹介します\*\*\*



### “山に来る資格がない”

みなさんは登山をしたことがありますか？あるクラスで聞いたところ、富士山に登ったことのある人が数人いました。さて、今回紹介するのは、登山に関するお話です。宿泊行事ということもあり、夜更かしをしてしまう5人。次の日の登山では、なんとか頂上にたどり着きますが、景色を楽しむこともできず、何度も転びながら下山することに。そんな中「山に来る資格がない」と言われてしまった5人。今回のように、夜更かしをして楽しむことが本来の目的ではないですよ。山に登る意味とは？最近の自分を振り返って、そのような自分勝手な行動はしていませんか？集団行動をするうえで大切にしなければいけないことはどのようなことなのか、考えるきっかけになりましたか。

《ワークシートより（授業の感想）》

- 危ないことをして、すごいついていうことが間違っている。トランプが1番の目的ではないから、それで疲れていたのではダメ。ルールを守って楽しむことが大切だから、それを大切にしたい。
- 私も小学校の宿泊学習でこの5人と同じようなことをしたことがあって、すごく後悔していたのを思い出した。なので、これからはちゃんと直したい。
- 山に登ることだけでなく、他のことでもやらないといけないことには必ず意味があるから、守らないといけないと思った。
- 目的を考えて行動することが大切だと思った。
- みんなで山登りを楽しもうとしているのに、ルールを破って山の景色を楽しんでいなかったり、山をなめしていると命を落とす危険があるから、ルールを守らないと登る意味がない。
- 山に登る目的、目標がぶれるとダメだと思う。



## “震災の中で”

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起きました。わずかな時間に多くの建物や人々の夢がくずれ落ちていきました。ライフラインを復旧させようと多くの人が頑張っていて、それを見た作者も人々の役に立ちたいとボランティアを始めました。しかし、被災者からボランティアへの苦情は絶えません。自分たちは頑張っているのに文句を言われるので、作者も腹が立っていました。あるときボランティアリーダーの「人を救うのは人しかいない」という言葉に作者は心を打たれました。周りを見渡すと必死に働いている人は、それぞれに、いやなことや困難なことを受け止めながら仕事をしていました。作者はみんなのために働くことは素晴らしいことなのだと実感しました。「働く」とはどういうことなのか、しっかりと考えられた時間となりました。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・働くということは人を救うことであり、未来を支えることだと思った。
- ・地震でたくさんの方が被害を受けたり傷ついたりしたけど、ボランティアの方がおられたから助かった人もいると思う。「人を助けられるのは人しかいない」という言葉にはとても共感した。
- ・働く人は自分が辛い経験をしていても周りの人を励ましたり、後世に伝えようとしていてすごいと思った。



## “一冊の漫画雑誌”

1月17日は阪神淡路大震災から25年目にあたる日でした。みなさんが生まれる前のことです。当時は建物がくずれ落ち、水道や電気が止まるなど、甚大な大きな被害が出ました。2011年3月11日には、さらに規模の大きな地震と津波が東北地方を襲いました。今回の道德の教材は、この震災のときに“一冊の漫画雑誌『少年J』がもたらした奇跡”についてでした。当時、被害状況を伝えるニュースがとび交い、本や漫画がまったく手に入らなくなった福島県に、一冊の少年Jが寄付されます。余震におびえて笑顔をなくした子どもたちを勇気づけようと、すぐに本屋の店長さんは「少年J読めます！」の張り紙を。あっという間に、店には少年Jを求める子どもたちの列ができ、やがて「一回読んだら20円」というルールを作られます。やがて、貯めたお金を他の被災地へ寄付するという奇跡が起きました。自然災害など“もしも”のときに、人と人々が支え合って生きていくために、みなさんはどのようなことを大切にしたいですか？一度、考えてみてください。



《ワークシートより（授業の感想）》 **支え合って生きていくために…？**

- ・与えてもらった恩は、その人に返すだけでなく、他の人に自分から与えることが大切だと思う。
- ・自分が気づかないところで支えてくれている人がいることに気づくために、まず自分の行動を見直す。いつ震災が起ころうと、受け入れられるように日々を大切にしていきたい。
- ・感謝の気持ちだけは、決して忘れない。自分のために動いてくれる人に恩返しができたら、支え合いが成立すると思う。いつかは恩返しができる人間になりたい。
- ・自分だけじゃなく他の人のことを考える。自分が満足したことを他の人へつなぐことで、たくさんの方が笑顔になり、支え合いになると思う。